

## 第1回「市民参加条例」策定に係るワークショップ 主な論点と意見

### 【論点1】ワークショップの進め方について

#### ●ワークショップ手法の考え方・進め方

- ・条例の内容を練り上げていくような段階で発散的に意見を出していくワークショップのような手法は不適切（意見出しで終わってしまう）ではないか
- ・これまでの検討経緯を検証していくプロセスが必要
- ・このような質疑を続けても行政と市民の溝は埋まらず、会議として意味がない
- ・行政と市民が議論を尽くす必要がある

#### ●新たな参加者や欠席者への対応

- ・会議の途中からでも円滑に参加できるよう、新しい参加者や欠席者については十分なフォローが必要ではないか

### 【論点2】「市民参加」に対する考え方

#### ●「市民参加」における市民と行政の役割

- ・参加する以上は市民にも責任があり、検討を通じて市民も成長しなければならない
- ・本来は市民が主体的に検討し、市はあくまでフォローする立場である
- ・市はきちんと「市民参加」が担保できる仕組みを示すべき

#### ●目指す市民参加の姿

- ・「参加のはしご」には、「行政によるコントロール」から「市民主体の運営」に至るまで、市民参加における多様な段階が示されているが、市として目指すべき段階を検討してほしい

### 【論点3】条例策定までのスケジュールについて

#### ●市民の立場に立った具体的な進め方（計画）の明示

- ・行政側のスケジュールを優先させるのは問題である
- ・「市民参加」で進めていくための具体的な計画を示すべき
- ・条例のとりまとめ段階における進め方（市民の検討への関わり方）が示されていない
- ・パブリックコメントだけでは内容の練り上げや修正が不可能である

### 【論点4】情報提供について

#### ●行政と市民の情報共有

- ・行政だけが知っている情報がないよう、市民に対して十分な情報提供を行ってほしい

#### ●市民の成長に資する情報提供

- ・市民の学習の場とするためにも、先進事例の紹介や学識者による講演会等を行ってほしい

以 上